

第12回 SSE 研究会議事録

「Safety Service Engineering によるグローバルな企業競争力の強化」 ー ライフサイクルにおける安全、環境、品質、生産性 ー

No.11-31 講習会、日本機械学会産業・化学機械と安全部門 企画

開催日 2011年6月15日(水曜日) 10:00-17:00

会場 仏教伝道センタービル 会議室4階「光」

趣旨 ユーザーが求める機械とは、生産開始から廃却までの長いライフサイクルに於いて、安全が確保され、初期製品品質が保たれ、生産維持に負担が掛からず、危険状態以外は動いたら止まらない、環境に配慮された“安全で安心出来る”素性の良い機械である。機械の素性は設計段階で決まるもので、ライフサイクルを通じて安定生産を維持する上で重要な高MTBFと低MTTRを伴った高い信頼性を備え、年代が経ってもユーザー自らが維持、管理出来るものでなければならない。製造業は高い品質と世界的なコスト競争力のある製品を作ることがグローバルな企業生き残りを図る唯一の手段であることから、機械メーカーに求められることはユーザーが提示した要求仕様通りの機械を作り上げることにより、これにより両社は機械完成後の手直しがなくなるという経済面での大きな利点を得れる。本講習会ではユーザー事例も交えながら、機械のライフサイクルに於ける安全性と信頼性の考え方として[SSE]と言う新しい概念について講義を通じて提案を行う。

司会：元味の素エンジニアリング（株）コンサルタント 佐田 守弘

題目・講師

【第1部：講義】

- (1) 10:00～11:00 「SSEの概念と方法論」
～安全性・品質・経済性の均衡
(社)日本機械学会、産業・化学機械と安全部門長、博士(工学)] 加部隆史
- (2) 11:00～12:00 「ライフサイクルエンジニアリングに於ける安全管理戦略」
～プラントにおける統合学概念と方法論
東京工業大学資源化学研究所
プロセスシステム工学部門名誉教授、仲 勇治
- (3) 13:00～14:00 「機械・設備における安全関連系エンジニアリングの現状と将来動向」
(社)日本電機工業会 PLC 技術専門委員会、セーフティ PLC WG 主査
富士電機（株）生産技術部システム技術センター 環境安全システムグループ、戸枝 毅

【第2部：エンドユーザーの事例】

- (1) 14:00～14:45 「製造業が求める”あるべき機械、ありたい機械”」 NPO 法人安全工学研究所、岡村隆一
- (2) 14:45～15:30 「ライフサイクルに於ける変更管理システム」 Safety Craft 代表、水野恒夫
- (3) 15:45～16:30 ISO/IEC Guide51 に示される安全の考え方
長岡技術科学大学システム安全系教授、福田隆文
- (4) 16:30～17:00 総評及び総括討議
長岡技術科学大学システム安全系教授、福田隆文

内容として、SSE研究会設立の2010に話題提供を依頼・実施された講師によるその成果発表であった。

募集は50名であったが、実際の参加者は招待者を含め23名と低調であった。東日本大震災の影響も考えられるが、SSEの概念につき、さらに分かりやすい打ちだしが求められる。

今回は、SSEの広い概念から、FA及びPA分野に関する内容となったが、参加対象を考えると、どちらかに絞った方が集客面で良いのではないかという印象があった。

更に詳しく議事録は、後日ICM&S部門で作成・公表予定。

2011.06.22 加部隆史